

FOSSは転機を迎えているか？

※FOSS: Free Open Source Software

Drupal、WordPress、QGISのコミュニティリーダーから学ぶ



DrupalCamp
Tokyo 2026

Sponsored by ユビキタスライフスタイル研究所



コンセプト



Drupalが、現在社会的にどう位置しているかを認識し、他のFOSSリーダーが何をやってきたかについて学ぶ。
そして、これからどうなるとリーダーたちが考えているかを聞いた上で、私たちの未来を考える

はじめに



- WordPress、QGIS、Drupalの歴史と統計情報

- 最初のリリース

- WordPress: 2003年5月27日 (1.0: 2004年1月3日)

- QGIS: 2002年7月 (1.0: 2009年1月5日)

- Drupal: 2001年1月15日 (←1.0)

- ※いずれも英語版Wikipediaの情報

- 利用者数(サイト数またはインストール数)

- WordPress: 810,000,000 (2024年)

- QGIS: 月間アプリ起動数2千万回 (2026年)

- Drupal: 1,180,000 (2017年)

AGENDA

- 1.登壇者自己紹介
- 2.FOSSプロジェクト紹介
- 3.イベントと資金調達
- 4.FOSSプロジェクトの今後の展望



SECTION

登壇者自己紹介



PROFILE



株式会社MIERUNE 取締役

森 亮

経歴： 1962年名古屋市生まれ
地図会社、GISベンダーを経て、FOSS4G事業を
手がけるオークニーを設立
OSGeo日本支部初代の代表者（現在は監事）
Apple Inc.やHERE Technologiesで勤務
現在は株式会社MIERUNE 取締役

趣味： Pokemon GO、アマチュア無線



PROFILE



株式会社コミュニティコム 代表取締役 星野 邦敏

経歴: 1978年11月:埼玉県さいたま市生まれ
2008年1月:株式会社コミュニティコム設立
主に2008年から2015年前後までWordPressコミュニティに関わる。

WordPress関連書籍執筆多数。

趣味: コワーキングスペース、シェアキッチン等の共創施設の運営

農業(2026年5月より新規就農者)

特許出願

PROFILE



ANNAI株式会社 代表取締役

紀野 恵

経歴

ANNAI株式会社 代表取締役
amazee JAPAN 主宰
「**Drupal 8** スタートブック」出版
meetup, DupalCamp オーガナイズなど

趣味

ライブ鑑賞

Mission

『オープンなWebテクノロジーを最大限に活用し、
クライアントの成長を支える基盤となる』
『ANNAI Makes Miracles !』



PROFILE



Drupalリリースの頃の写真

合同会社ユビキタスライフスタイル研究所代表

萩原 高行

経歴: 合同会社ユビキタスライフスタイル研究所設立(2013)
株式会社シーエーシー(1984新卒～2013取締役退任)
1960年生まれ

関心: 野望: 誰もが場所にしばられずに協働できる社会の実現
できる限り束縛されない未来の実現を指向
FOSSとオープンデータに期待
その現実化のために必要な基盤整備に貢献したい

FOSSプロジェクト紹介

登壇者個人視点でWordPress、QGIS、Drupalの強みを語る



WordPress

1. 著作権

- a. コアソフトウェアはもちろん、公式ディレクトリに登録されるテーマやプラグインも原則GPL (GNU General Public License v2 or later) を採用 (GPL でも販売は自由)。
- b. 商標「WordPress」は非営利団体WordPress Foundationが保有し、ソフト本体の「WordPress.org」と商用の「WordPress.com」(Automattic社が運営) は区別される。

2. コミュニティ

世界規模のMeetup・WordCampイベントと、コア開発を支えるコントリビューターチーム。企業が開発リソースを還元する「Five for the Future (= 企業や個人がリソースの5%をWordPressへの貢献(コード、翻訳、コミュニティ運営など)に充てる文化)」。

3. 強味と弱味 (直面している課題)

強み: 全Webサイトの約4割を占める圧倒的シェアと巨大エコシステム。学習コストが低く非エンジニアでも運用できる「民主化」。豊富なテーマ・プラグイン群。

弱み: 意思決定が創業者個人・特定企業に集中しがちでコミュニティとの緊張が表面化。プラグイン起因のセキュリティ・品質のばらつき。後方互換性重視ゆえの技術的負債がある。



FOSS4G - QGISなど

1.FOSS4Gは、地理空間情報分野のOSS全般を指します

- a. デスクトップクライアントとして **QGIS** が最も普及
- b. Webクライアントとして **MapLibre** が主流に
- c. バックエンド(**PostGIS**, DuckDB など)

2. コミュニティ

- a. OSGeo財団が2006年に設立、世界各国に支部がある
- b. 日本も2006年から「OSGeo日本支部」があり、活発

3. 強味と弱味(直面している課題)

- a. 強み: 要望に応える多様なソフトウェア群と幅広いコミュニティ
- b. 課題: 業務用で採用されるにもかかわらず、相変わらずフリーライドがまだまだ多い

※この内容はOSGeoの公式見解ではなく登壇者の考えです



Drupal

※この内容はDrupalプロジェクトの公式見解ではなく登壇者の考えです

1. 版権

- a. GPL v2 or Later。大きな特徴としてはコアを含むモジュール(外部プラグイン)がGPLとして提供されている。有料モジュールがほぼ無い。

2. コミュニティ

- a. オンラインでは[Drupal.org](https://drupal.org)・Slackなどでオープンな議論の元でのコード・コミュニティがあり、Drupal Associationが主導する形でオフライン・コミュニティ活動も盛ん。
- b. FounderのDriesを中心に据えつつ民主的な手続きで運営されており、オープンな議論が公開されている。ITトレンドへの追従も積極的。

3. 強味と弱味(直面している課題)

- a. CMSに限定されない開発フレームワーク的な側面がある。MVCフレームワークの導入でさらに自由度が上がり、大規模開発案件での利用シーンが多い。
- b. 国連からのデジタル公共財認定、世界各国の政府機関、トップレベル大学などでの利用やフィードバックも多くプロジェクト永続性を評価されている。
- c. CMS特化していないためにわかりにくい、難しいとの印象を持たれがち。そのソリューションとして**Drupal CMS**という新ブランドを立ち上げた。

イベントと資金調達

初期のイベントの振り返り、コミュニティ活動のための資金はどうしたか？



WordPress

1. イベント階層

- a. 地域 Meetup → WordCamp (都市・地域) → フラッグシップ (WordCamp Asia／US／Europe) の重層構造。
- b. 日本では2008年頃～2018年の「WordBench」(地域勉強会) が草の根を支え、その後 Meetup.com ベースへ移行。WordCamp Tokyo／Kansai／Fukuoka、WordFes Nagoya など各地で開催。

2. 資金調達 (登壇者の実体験)

- a. 初期は完全にボランティア・手弁当。会場は企業や行政施設等、運営はコミュニティの持ち出しが基本だった。
- b. 規模拡大に伴い企業スポンサーフィー＋低めの参加費で運営。非営利の WordPress Foundation が金銭的サポートをするようになった。
(WordCamp やります！と手をあげた時点で金銭的問題が解決するように。)

FOSS4G - QGISなど

FOSS4G Hiroshima
2026, Japan

Bridging Geospatial Technology and Humanity

August 30 - September 5, 2026

Register Now



1.年に1回グローバルカンファレンス(FOSS4G)を開催

a.今年開催のグローバルカンファレンスは広島市で 8月30日～9月5日に開催

- <https://2026.foss4g.org/>

b.東京や大阪など、毎年日本各地でカンファレンス開催してきている

- 今年はグローバルカンファレンスがあるので、日本支部が主催する国内メインカンファレンスは開催されない

2.財政運営は世界各地の「地産地消」

a. 日本は企業スポンサーおよび個人からの資金を元に組織運営を行っている

b. 日本支部は設立以降 20年間手堅く運営できている

※この内容はOSGeoの公式見解ではなく登壇者の考えです

Drupal

1. イベント階層

- 定期的な地域Meetup(オン・オフ集会)、Camp(ローカルイベント)、DrupalCon(年2～3回の世界的なカンファレンス)が開催されている。

2. 資金調達

- Meetupは参加費や手弁当での運営をしているグループが多い印象。
- Campは参加費、スポンサーフィー、Drupal Associationからの協賛
- US/EUでのDrupalConは1億円～3億円規模の予算で行われる。
Assosiationへの会費、スポンサーフィー、参加費、寄付などで賄う。



FOSSプロジェクトの今後の展望

COVID後、イベント収益でプロジェクトをまわすのは困難になったと言われているが、どうやったらプロジェクトを維持できると思うか？



星野 邦敏

1. 生成AI時代における「誰でも使えるCMS」の価値

- a. 2026年5月20日リリースのWordPress7.0においてAI連携機能がコア(本体)に統合。APIキー連携によってWordPressを直接操作する「エージェント」として機能。
- b. 「とりあえずWordPress」だった層がAIツールやSaaSへ流出していく未来も。→SaaSやプラットフォームに依存せず「自分たちのコンテンツを自分たちで所有し、コントロールできる(Own Your Data)」というWordPress本来の理念こそが最大の生存戦略？

2. ガバナンスとコミュニティの持続性

巨大OSSが個人・特定企業に依存する構造的リスク(WP Engine問題)。分散的で透明なガバナンスへの移行が長期存続の鍵。

3. ローカルコミュニティの再評価

日本では地域の勉強会と中小事業者・制作会社の結びつきが強く、ローカルな持続性の土台になっている。→WordPressを活用しつつ、WordPressから派生するビジネスで収益を確保する企業も多数。



森 亮

- 1.財政的には、グローバルで見るとCOVIDの影響よりもトランプ政権の政策によるダメージが大きいです。
 - a.NOAA/NASAや国際機関への科学技術支援が途絶え、結果的にソフトウェア開発にも影響があります。
- 2.FOSS4Gコミュニティは特定のソフトウェアでは無く、地理情報に関連する様々なソフトウェアから構成されているため、時代の変化に対応しやすいです。
 - a. QGISは今は最も普及しているデスクトップツールですがAIの進歩によってGUI全盛の時代が変わるかもしれません。
 - b. 近年、Cloud Nativeの技術革新が顕著で、それに対応したソフトウェアツールやデータ形式が注目を集めています。
 - c. OpenStreetMapsコミュニティ(地図データ)との友好関係のもと、自由でオープンな地理空間情報の世界を発展させています。



紀野 恵

1. 生成AI時代のDrupal像(超個人的視点)

- a. 過去10年のネイティブアプリ、SaaSムーブメントと生成AIのインパクトの違い
- b. 純度の高いOSSプロダクト=コードのコモディティ化への耐性
- c. SEO・検索流入が無くなった時、CMSに載せるコンテンツの価値とは
- d. 開発フレームワークとしてのアーキテクチャ、ガードレールが強固であることの AI開発時の優位性。モジュールの爆発的な増加と AIメンテナー。
- e. 保守性、運用面へのスポットライト。セキュリティ意識の高まりと静的 CMS対応のニーズ。

SECTION



オープンディスカッション

SECTION

おわりに

